

平成 27 年度

全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書

～学校、家庭、地域、行政が一体となった教育活動の充実に向けて～

北海道教育委員会

平成 27 年 11 月

【はじめに】

平成27年度全国学力・学習状況調査を詳細に分析し、北海道版結果報告書として取りまとめました。

本道の状況は、全国の平均正答率との差が5教科で縮まり、中学校国語A、中学校理科は全国平均以上となるなど、昨年度に引き続き改善の傾向が見られ、教育委員会や学校、家庭、地域の取組が一定の成果として着実に現れてきたものと受け止めています。授業改善や生活習慣にかかわっては、授業の冒頭で目標を示したり、最後に振り返ったりする活動に課題があることや、子どもたちに家庭学習の習慣が十分身に付いていないことが、より明確になってきました。

また、公表に同意をいただいた市町村の掲載内容は、レーダーチャートや学力向上策など、それぞれの特色が表れるようにしているものであり、各地域において、学校、家庭、地域、行政が課題を共有し、一体となった学力向上の取組が一層促進され、北海道全体の学力向上の機運がさらに高まることを期待しています。

道教委では、本道の児童生徒の学力向上の取組を引き続き推進してまいりますので、教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年11月

北海道教育委員会

【目次】

I	結果のポイント	1
II	全道の状況	
1	平均正答率の推移	2
2	調査結果のレーダーチャート図	4
(1)	小・中学校全教科	
(2)	小学校・教科	
(3)	小学校・児童質問紙調査	
(4)	小学校・学校質問紙調査	
(5)	中学校・教科	
(6)	中学校・生徒質問紙調査	
(7)	中学校・学校質問紙調査	
3	正答数の状況（下位層の割合）	17
4	全道の学校の平均正答率のばらつき	19
5	A問題とB問題の相関	21
6	上位県（秋田県）との比較	23
7	北海道の課題と課題解決の方策	25
8	道教委の学力向上の取組	41
III	管内の状況	
1	管内の平均正答率のばらつき	43
2	各管内の状況	45
IV	市町村の状況	
1	市町村の規模別の平均正答率	101
2	市町村の平均正答率の度数分布	104
3	市町村の状況及び学力向上策	105
	執筆者・協力者一覧	377

【調査の概要】

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年の全児童
- 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全生徒

3 調査の内容

- ①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A、理科〕
 - ・主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B、理科〕
 - ※ 理科は平成24年度以来3年ぶりに実施。また、「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に出題。
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査期日

平成27年4月21日（火）

6 平成27年4月21日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,080	1,076(99.6%)	42,068	小学校	20,033	20,005(99.9%)	1,061,301
中学校	610	606(99.3%)	40,966	中学校	9,731	9,691(99.6%)	1,016,737
合計	1,690	1,682(99.5%)	83,034	合計	29,764	29,696(99.8%)	2,078,038

※ 小学校には特別支援学校小学部を、中学校には中等教育学校、特別支援学校中学部を含む ※ 札幌市を含む
※ 対象生徒の欠席により調査期日に実施できなかった学校は、実施学校数(校)に含まれていない

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 管内及び市町村の状況で掲載したグラフには、「その他」、「無解答」等の回答を割愛しているものもあり、必ずしも合計が100%にならない場合がある。

【用語説明】

語句	説明
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。 標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。